335複合地区 GET委員会　報告

335複合地区GETコーディネーター・委員長　正岡　章

■ エクステンションの必要性

- 高齢の少人数クラブに若手の新会員を入れても、馴染めずに退会してしまうことが多い。そういう場合はむしろ高齢会員の子弟や取引先を紹介してもらい、食事会等を通して親交を深め、新クラブ結成に繋げる方が良い。
- 火種さえ作れば良いので、最初に集めるのは3人程度で充分である。
- かつては各クラブとも自クラブの立て直しに意識が向き、新結成は後回しになっていた。しかし最近は『新クラブも作らないと地区の未来が無い』という認識が共有されている。

■ 新クラブより新支部を

- 一からクラブを作るのは難しいので、まずは支部を作ると良い。存続が危ぶまれているクラブは自クラブの将来に繋がるような支部を、運営が順調なクラブは親クラブを更に活気づけるような支部を作るのが望ましい。
- 親クラブが高齢の場合は、若手の支部は積極的に他の若手クラブ・支部（他地区を含む）と交流する方が活気を保てる。親クラブから促してほしい。
- 高齢会員が若手を押さえつけず「好きにやれ」と奨励するクラブは活気が出る。高齢クラブが自クラブの色を変えたくないのであれば、若手の支部を作れば良い。親クラブが事業資金を出し、その上で事業実行はすべて支部に任せている例もある。

■ 支部からクラブへ昇格を

- 奈良西LCでは支部を作り、21名まで増やしてクラブに昇格した。奈良西LCと合同で例会や事業を行い、勉強してもらっている。
- 支部を複数作っておいて、時期を待って合併するのも、有効な手法である。
- 若手の支部を作って人数を増やし、親クラブが高齢化したら親クラブと支部のメンバーを入れ替えるという案も出ている。危機感を抱く会員は斬新なアイデアを考え出し、それを実行する気概もある。

■ その他

- 事務局廃止による会費減額やオンライン例会で会員の負担を減らすクラブが増えており、若手が入会する障壁を下げている。若手が入ればその若手が別の若手を連れてきて、クラブ全体が若返っていく。